

第 29 回 日本脳腫瘍の外科学会 参加報告

柏葉脳神経外科病院 先端医療研究センター 平野 透

2024 年 10 月 4~5 日高知県民文化ホールで第 29 回 日本脳腫瘍の外科学会が開催され、今回有難くも教育講演の職を頂き参加してきましたので報告致します。脳腫瘍の学会には日本脳腫瘍学会と日本脳腫瘍の外科学会があるようですが、脳腫瘍の外科学会では手術手技に関する学術研究が主な演題であり、脳腫瘍学会では更に放射線治療や病理診断学、免疫・分子標的治療などの薬物療法など様々な治療に関する研究成果を報告する学会と思われ、今回参加した脳腫瘍の外科学会は頭蓋内・頭蓋外など様々な脳腫瘍の外科手術に関するシンポジウムや一般研究発表で構成されています。今回の学会テーマは「教育と質の保証」であり、優れた技術や知識を教育者としてどのように若手に継承するか、また技術や知識をどのように維持するかを主眼においた多くのプログラムで構成されていました。腫瘍摘出において自身の勤務している施設では行っていない術野からの開頭方法や顕微鏡を用いた手術以外に内視鏡や外視鏡を用いた手術など新たな情報を多く吸収することができとても勉強になった学会でした。また手術方法に関する演題では、会場の先生方と術式に関する熱い討論などがあり診療放射線技師関連の学会ではなかなか経験しない場面も見る事ができました。おそらく新たな術式や器具を用いた研究はあくまでも安全でなくてはならず、手術を受ける患者の負担や確実な腫瘍摘出が保証されることを前提に行うべきで、そこに外科医の治療に関する誠実さが激論になるのだと感じました。私達も発表される研究に対して真摯に討論する必要がありますね！

私自身の発表は「脳外科手術を画像で支援するための取り組み」というテーマで手術に役に立つ画像を提供するためには適切なデータ取得と最適な 3D-CTA や MRI 画像の選択に加え、外科医がどのような画像を求めているかを知った上で画像を作成することが大事であり、そのためには日頃から医師とコミュニケーションを取ることが大事で、前職の札幌医科大学附属病院、そして現職の柏葉脳神経外科病院で脳外科の先生方とやっている画像作成に関する取り組みを紹介させて頂き

ました。前職と現在の柏葉脳神経外科病院とは病院の規模なども異なりますが、外科医が求める手術支援画像に対するレベルには変わりないことを自身としては体感しており、環境が異なっても様々な方法を使って医師とコミュニケーションを取る必要があることを伝えました。発表後は数施設の先生方から建設的な意見を頂き、我々診療放射線技師へ期待も感じる事も出来ました。

また座長が私の恩師である脳外科の先生でしたので、あまり緊張もせず講演することもできました。

高知での学会での開催で、高知と言えば「カツオのたたき」この時期のカツオは戻りカツオといって脂の乗った美味しいたたきを毎日頂きました。ただ、市内で有名な「ひろめ市場」にある「明神丸」のカツオのたたきは絶品と聞いていましたが、多くの観光客が来られており断念してしまったので、今度何かの用事で高知に行った時には必ず食したいと思いながら帰りました。

来年は7月19,20日に第28回日本臨床脳神経外科学会が高知で開催されるようです。多種職の方が参加される学会だそうで、放射線技師の発表もあると聞いています。この学会も良さそうですね！



大会長の上羽哲也教授（高知大学）からもコメントを頂きました



今度に行きたい「ひろめ市場」の明神丸